

健康登山22:自然歩道10 (郷ノ口～御林山～鷲峰山～和束 原山)

コース	郷ノ口バス停 2.4km/32	御栗栖神社 1.9km/29	地福谷入口 2.1km/53	御林山 2.1km/44	白谷林道始点 2.3km/55	東屋 1.6km/39	鷲峰山 1.2km/26	三角点 1.3km/27	金胎寺 3.4km/76	原山バス停
水平距離	18.3km									
水平換算距離	19.0km									
累計高低差	登り993m、下り960m									
標準歩行時間	6:20									
実績歩行時間	6:20									
				断面図						



山行報告

山行日 2007・3・1(木) 天候 快晴 参加者 6名

行動 JR宇治駅8:23 郷ノ口下町バス停8:48~9:01 御栗栖神社9:40 地福谷入口10:16
 御林山11:08 熊蔵神社11:39 白谷林道始点12:10 東屋12:56~13:35 鷲峰山14:07
 三角点14:45 金胎寺15:16 原山バス停16:21 JR木津駅17:10

記録

今回は東海自然歩道を宇治田原の郷ノ口から和束の原山までお茶畑を歩くコースである。途中で自然歩道の近くにある御林山401.9m、鷲峰山682m、一等三角点のある釈迦岳681.2mにも登った。したがって東海自然歩道を歩きながら周辺の山を三山登ったことになる。前回同様宇治駅に集合し、バスで宇治田原の郷ノ口へ向かった。準備体操をした後9時から歩きはじめた。犬打川に沿って走る府道62号線を4kmほど歩き、鎌磨橋から地福谷に入るのだが62号線は交通量が少なく茶畑を見ながら散策気分で歩けた。途中にある御栗栖神社に参拝し休憩所で休んだ。地福谷に入り谷が東へ曲がったところに『ふるさとの森』と記された道標があった。この道を登ると林道歩きを短縮して御林山へ通じる林道に出られた。御林山には2.5万分ノ1地図の破線通りに道があった。下山は踏み跡を辿って東へ進んだら稜線から鷲峰山が見え、それから熊蔵神社に出た。その後はひたすら林道を歩き、白谷林道始点を経て地福谷を登りつめ大道寺登山道との出合にある東屋で1時間遅れの昼食をした。東屋から30分ほどで鷲峰山頂上に着いた。快晴で愛宕山、比叡山、琵琶湖とその奥にある比良連山などが見えた。約1時間で一等三角点の釈迦岳を往復し、金胎寺で暫く休んでから原山へ通じる鷲峰山参道を降りはじめた。急坂を慎重に下ると広大な茶畑のある景色が見られた。茶畑と集落を通り抜け、1時間ほどで原山バス停に着いた。木津行きのバスは1時間に1便しかないので要注意。

自然歩道 (宇治田原～御林山～鷲峰山～原山)



御栗栖神社
9:43



御林山へ
10:21



御林山にて
11:16



御林山から
鷲峰山
11:24



鷲峰山から
愛宕山
14:07



重文多宝塔前で
14:24



三角点峰で
14:52



金胎寺
15:22



茶畑を下る
16:04



参道下山口
16:21

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：宇治田原 郷の口～和束町 原山）

参考資料、京都府歴史散歩 / 京都滋賀南部の山 / 他より

さいてん
齋田神社：社格は旧村社、祭神は高皇産靈神、他七社、末社に(左)金刀比羅宮、(中央)は大神宮、(右)の田原神社(又太郎社)は、齋田神社に合祀されたもの。近くに田原又太郎忠綱の墓がある。

藤姓 足利忠綱(田原又太郎)は源平の頃、以仁王との宇治川合戦に平家方の武将として若干十七歳で参戦、宇治川の急流を渡る作戦を敢行勝利に繋げる。

宇治川先陣で功を立てたが、訴えで恩賞を受けられず、平家を離れて源頼朝の拳兵に依るが頼朝の重臣、小山朝政との不和から謀反に加担して朝政に敗れ西海に逃れたとも、また宇治田原の伝承は平家滅亡を嘆いて郷の口小字北堂山(お旅所)で自刃したともいう。(以仁王の御所高倉宮は京都文化博物館が遺構)

足利忠綱は藤原秀郷(依 藤太)十世の子孫。(源姓足利尊氏とは無関係です) [依の藤太は一説では山城の田原郷を治め一名を田原藤太とも言われ縁の地]

御栗栖園故址石碑：「壬申の乱」の直前、吉野で出家すると出た大海人皇子を、「虎に羽をつけて野に放つようなもの」と言われ、大友皇子の妃(十市皇女)が、父である大海人皇子に焼き鮎の腹の中に密書を送り、討伐のあることを知らせる。大海人皇子は山を越え、山城の田原へ来る道をさ迷い続けた折、異様な風体に怪しん里人だが、栗を焼き、又茹でて出し接待した。皇子は、その二種の栗を「思ひかなったら、芽を出し木になれ」と祈願し埋めた。天武天皇と成った後、田原の里に埋めた栗は、形も変わらず生えてきたという。(宇治拾遺物語)

《石碑には天武天皇がこの地を開墾された業績の碑文が刻まれている》

御栗栖神社周辺の栗林は八町歩もあり、光沢と味の良さで知られ、毎年 11 月 15 日に禁裏御所へ献上され明治 20 年まで続いた。現在は茶畑になっている。

御栗栖神社：宇治田原の一宮、祭神：天津彦根命(後述)

光仁天皇の宝亀元年(770)御栗栖の守護神として創建された。

十月の田原三社祭りが知られている。

ごりんやま
御林山：401.9m三頭三角点。皇室御料林で寛永 12 年(1662)この地に設定され皇室直轄地とされた。近くの村々はこの山に、税を払い柴や下草を採り生計の足しとした。秋には毎年松茸や栗を、大嘗祭の時には御用材を切り出し献納した

という。明治 20 年秋にクヌギ山の区分競売がなされた。現在は京都府生活環境保全林。

1990.5 月には、北に大峰山、東に鷲峰山、西から南に井手町の良山^{うしとらやま} 443.8 m、飯盛山 474.8m、奥岸谷山^{おくがんだにやま} (オハラ)522.0mの山などが見られたようだ。

犬打川 : 後醍醐天皇が笠置から和束越えて田原の南でさ迷った一行の姿が異様であったため、犬が激しく吠え立てるので、所在を知られるため、打ち殺したという。故にこの辺りを源とする川を犬打川と称するようになった。

犬打峠 : 鷲峰山の南西にある峠。鎌倉幕府討幕をめざす後醍醐天皇の一行が、宇治田原から鷲峰山金胎寺に向かった、幕府の目を避けるため、谷沿いから峠にさしかかった時、野犬の群れに吠えられた。幕府側に気づかれるのを恐れ、弓を射て犬を殺したという。それ以後この峠を犬打峠という。史実らしい。

鷲峰山 : 標高 685m、天竺の靈鷲山^{りょうじゆせん}に似るとして名付けられた。八つの峰からなり、八葉の蓮華にたとえて釈迦嶽、阿弥陀嶽等ともよばれる。以下弥勒嶽、宝生(如来)嶽、阿閼(如来)嶽、虚空蔵嶽、不空(観音)嶽、伎楽嶽、一等三角点(681.2m)が釈迦嶽にある。また天文測量をして座標を決める天測点がある。昭和 26 年～昭和 33 年に全国に 48 点設置された。一辺 27 ㍍太さ 65 ㍍八角形のコンクリート柱には天測点銘板が付けられている。

天測点と一対の鷲峰山子午線標は天測点位置から、真南 6.5km の P384 地点の南西 100m 付近の林道南側、林の中にある。笠置大橋下流の木屋集落^{こや}から木屋峠林道経由で集落から北東の位置方向にあたる。2001.3 月に確認されている。夜間の三角測量のため、灯火が確認し合える見通しのよい位置に設置される。

《なお京都府舞鶴の多祢寺山(556m 一等三角点)にも天測点がある》

金胎寺 : 鷲峰山の頂上近くにあり、境内は国史跡になっている。

天武天皇白鳳 4 年(676) 役小角^{えんのおづぬ}の開創。養老 6 年(722)加賀白山神社の越智泰澄^{おちのたい}が役小角の遺跡を慕って来山再建したという。また聖武天皇の勅願寺となり、58 にも及ぶ堂塔伽藍を有するほど栄えた。修験道場として大峰山に対し「北の大峰」と称され、行基、空海、最澄なども修行したという。4 km 2 時間程の行場巡り道がある。

越智泰澄^{おちのたいちよう}は加賀白山の僧で白山神社を創建、元正天皇(44 代)から神融禅師、

聖武天皇(45代)から大和尚位を授かっている。

泰澄が修行中虚空に鉢を投げると、施物の米飯が入って戻ってきたといわれ、後にその鉢を峰に埋めたことから空鉢ノ峰といわれるようになった。

元弘の変(1333.3月)に後醍醐天皇が笠置に逃れる途中に立ち寄ったため、追って来た幕府軍によって焼き討ちされ、さらに再度の出火などがあり衰微した。多宝塔(国重文、鎌倉)は焼失を免れた唯一の遺構です、永仁6年(1298)第52代伏見天皇の勅願で建立されたものです。

山頂に立っている宝篋印塔ほうきょういんとうは正安2年(1300)の銘があり国重文です。(最古のものは鎌倉地方の墳墓から出土した、宝治2年(1248)銘のものです)

寺には銭弘せんこうしゅうく八万四千塔(国重文、中国五代)の一基がある。

越呉国の王の銭弘せんこうしゅうくが、長く続いた戦争や飢饉に苦しむ民をみて、インドのアショカ王の故事に習い、銅製金塗小塔8,400をつくり諸国に頒布したもので、塔内に宝篋印陀羅尼ほうきょういんだらにきょう経が納められている。塔内部には「顯徳二年」(955)の銘。日本に500頒布、これ以外に日本で銅小塔3基が判明している。宝篋印塔(石柱)の祖形とされる。

行者堂：役の行者の像が安置されている。

天狗の握り石：山頂にある大きな丸い石。触れると万能の力が授かるとか。

原山コース：昔の修験者は和束町原山の西にある園村にある「笈の滝」で禊をして原山から鷲峰山に登ったという。本来表参道は和束町側であった。

原山バス停の登山口に「鷲峰山参道」と刻まれた石柱の門もある。

天津彦根命あまつひこねのみこと：天照大神と素戔鳴尊うけびが誓約したときに生まれた神。

天の安河原で素戔鳴尊が天照大神の勾珠を噛んで吹き付けた息から生まれた三番目の男神。天照の持ち物から生まれたので天照の子とされる。

日、海、風の神、特に雨乞いの神。(古事記は天津日子根命)

フリー百科事典より 因みに四番目に生まれたのが活津彦根命いきつひこねのみこと(活は栄えるの意)で活津彦根明神として彦根山(金亀山)に祀られた。

彦根(市)の地名は活津彦根命に由来する。

高皇産霊尊たかみむすびのみこと：高御産巢日神たかみむすびのかみ(高木神)ともいう。

高天原に二番目に出現した神で天地の生成を意味している。最初の神は

天之御中主神あまのみなかぬしのかみ、三番目は神産巢日神かみむすびのかみで、この三神を「造化三神」と呼び天地創造、万物生成の大事業をおこなうのである。